

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	20H05699	研究期間	令和2（2020）年度 ～令和6（2024）年度
研究課題名	白血病難治性の分子機構解明と新規治療法の開発	研究代表者 （所属・職） <small>（令和4年3月現在）</small>	前田 高宏 （九州大学・医学研究院・教授）

【令和4（2022）年度 中間評価結果】

評価		評価基準
○	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（研究の概要）</p> <p>本研究は、難治性白血病に対する新規治療法の開発を目指して、研究代表者らが樹立したマウス急性骨髄性白血病（AML）と急性リンパ性白血病（ALL）の細胞株を対象に、独自の CRISPR/Cas9 ゲノムワイドスクリーニング系を用いて、現行治療薬の耐性機構の解明と並行して、新規併用療法のための標的分子（合成致死性分子）を同定し、同定分子の POC（proof of concept）取得と阻害剤の薬効評価を行う計画である。</p>		
<p>（意見等）</p> <p>研究代表者らのグループは本研究を実施するために十分な知識と解析手法や技術を有し、既に AML や IGH-CRLF2 再構成を有する ALL に対して有効性が期待できる治療薬の候補を同定している。その成果は論文として掲載され、さらに投稿中や投稿準備中の論文も有する。</p> <p>現状では、当初の想定を上回るペースで研究が進展している。そして、研究成果として既存薬の応用だけでなく、新たな治療薬開発に向けた POC 創出も目指すなど、今後の更なる展開が期待できる。</p>		